



公益財団法人 長崎平和推進協会
<https://www.peace-wing-n.or.jp/>

- スーザン・サザードさんと語る「朗読会と家族の思い出」
- 「歴史と向き合う被爆地から学んだこと」 ■ ローマ教皇(法王)来崎
- 海外原爆展 / 被爆体験講話 in America
- 家族・交流証言 / 被爆体験記朗読 in Malaysia ■ 家族・交流証言者デビュー
- 市民対象碑めぐり ■ アジア青年平和交流事業発表・審査会
- 佐世保平和関連施設見学バスツアー研修 ■ 第33回外国人と長崎市民の集い
- 国連軍縮週間市民のつどい開催 ■ 来訪者コーナー ■ 会員の広場
- TOPICS! (第7期 平和案内人育成講座開始 ほか)



折り鶴アクティビティ (マレーシア・国立ピールロード修道院附属高等学校)

著書「ナガサキ - 核戦争後の人生」を通じて出会った被爆者に感謝して...



スーザン・サザードさんと語る 「朗読会と家族の思い出」

11月9日、追悼平和祈念館交流ラウンジで、スーザン・サザードさんと語る「朗読会と家族の思い出」を開催しました。

この会では、まず5人の被爆者の人生を描いた「ナガサキ・核戦争後の人生」の著者であるサザードさんが、被爆者との出会いやインタビューの様子を一人ずつ日本語で語り、著書の一部をその被爆者と親交が深かった永遠の会メンバーが朗読しました。

また、本に登場する永野悦子さんとご子息のほか、谷口稜暉さん、和田耕一さん、堂尾みね子さん、吉田勝二さんのご家族にもご参加いただき、幼少時の思い出や被爆後の生活など、家族だからこそ知る話を語っていただきました。

この他にも翻訳を担当された宇治川康江さん、本を出版したみすず書房の八島慎治さんなど、120人を超える方々が来場してください、会場からあふれるほどでした。「ナガサキ」という1冊の本に関わった方々の思いが一つになった時間は、会場の皆さんの心にも届き、涙を流して話を聞いている方も多く見られました。また、本に登場する5人の被爆者のうち、3人は故人となりましたが、その方々もその場において話を聞いているように感じる時間でもありました。



特別市民セミナー

「歴史と向き合う
被爆地から学んだこと」



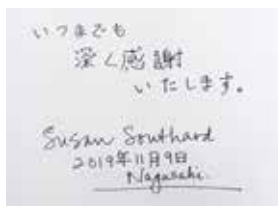
11月10日、原爆資料館ホールでスーザン・サザードさんの「ナガサキ - 核戦争後の人生」の出版を記念する特別市民セミナーが、核兵器廃絶長崎連絡協議会の主催で行われました。サザードさんは、長年にわたるインタビューを通して交流した谷口稜暉さんから被爆者との出会いを振り返り、「読者が作品を通して被爆者の体験を疑似体験し、その気持ちを感じてもらいたい」と語りました。また、芥川賞作家の青来有一さん、詩人で絵本作家のアーサー・ビナードさんを交えたトークセッションでは、「これからは被爆体験を検証し、被爆者の思いを共有することが必要」などの意見が出されました。

長崎での2つのイベントを終えたスーザン・サザードさんより

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館において、著書「ナガサキー核戦争後の人生」に登場する被爆者とその家族、そして集まってくださった方々を前に、本についてのお話しを、本にたことは、私にとって、とても素晴らしい貴重な経験となりました。

会場にはお世話になった方々もたくさんお越しくださいました。私の言葉で感謝の意を伝えることができました。また永遠の会の方々が、私の本の一部を素晴らしい日本語で読んでくださいました。

この本の出版、そして朗読会に携わってくださった全ての皆様、長崎平和推進協会の方々に深く感謝申し上げます。皆様、本当にありがとうございました。



▲サザードさんからの日本語でのメッセージ

朗読を行ったのは、被爆者と親交が深かった「永遠の会」メンバー



▲来場した永野悦子さんが、ご自身の体験や思いを語りました



白鳥 純子さん



松尾 蘭子さん



吉田 睦子さん

吉田さんの体験を朗読しました。当日は吉田さんのお誕生日だったこともあって、その場所で吉田さんが聞いてくれるような気持ちになり、心を込めて朗読することができました。顔に涙が溢れ、被爆後絶望的な経験をされた吉田さんの思いをこれからも伝えていこうと思います。

永野悦子さんと故・堂尾みね子さんの体験を朗読しました、お二人は逆境にもめげず、社会的挑戦を重ねながら生きてこられました。私はその姿に、原爆の悲惨さと被爆者の想いをいかに多くの人に知ってもらおうか、そのあり方を導いていたきました。お二人の生きざまをお伝えすることで、平和の尊さを感じ取っていただければありがたいです。

谷口さんと和田さんを担当しました。核兵器が無くなるまでは安心して死ねないと頑張っておられた谷口さん、「僕は何も悪か事はしとらん」と言って亡くなった友人の無念さを思い続ける和田さん。共に原爆体験を語り、世界平和に半生を捧げました。そんなお二人の心の原点に寄り添ったスーザンさんのこの本の真意が世界に広く伝わるよう願っています。



▲著書「ナガサキー核戦争後の人生」にサインを行うサザードさん

「長崎を最後の被爆地に！」と平和推進事業に取り組んできた当協会としても、教皇の今回のメッセージを「大切な宝物」として、核兵器廃絶をめざす世界中の人たちとのネットワークと共感を拡げていきたいと考えています。

「長崎を最後の被爆地に！」と平和推進事業に取り組んできた当協会としても、教皇の今回のメッセージを「大切な宝物」として、核兵器廃絶をめざす世界中の人たちとのネットワークと共感を拡げていきたいと考えています。

「長崎を最後の被爆地に！」と平和推進事業に取り組んできた当協会としても、教皇の今回のメッセージを「大切な宝物」として、核兵器廃絶をめざす世界中の人たちとのネットワークと共感を拡げていきたいと考えています。

ローマ教皇（法王）来崎 「長崎から平和と行動を訴え」



写真：長崎県提供



追悼平和祈念館では、被爆60周年の平成17年度から毎年海外原爆展を実施しています。今年度はアメリカ合衆国フロリダ州オーランドにあるバレンシアカレッジで10月7日から11日まで、オーランド公共図書館では10月14日から11月2日まで原爆展を開催しました。バレンシアカレッジ会場では「飛ぶ折り鶴」をテーマに、展示室の床に折り鶴の画像が投影されました。

開会式に合わせ、継承部委員の清野定廣さんが合計4回、被爆体験を話しました。自作の絵を用いながら、真剣な中に時折ユーモアも交えた講話に、多くの人が熱心に聞き入りました。終了後は清野さんの周りに「遠いところを来てくれてありがとう」と握手やハグで感謝の気持ちを伝える学生たちや質問する人たちが多く集まり、和やかで温かな雰囲気になりました。

また、展示会場には折り鶴コーナーを設け、折り方を分かりやすく伝えるために現地のスタッフが事前に動画を作成し、流したところ、それを見ながら初めての折り鶴に挑戦する多くの学生の姿が見られました。原爆展終了後はメッセージカードが届き、平和を願う人々の声が寄せられました。



海外原爆展 メッセージコーナー



私たちは、破壊兵器を造るのではなく、平和への架け橋を築いていきましょう。
できるはずです。皆同じ人間なんだから。

無意味な戦争、死、そして紛争のない日が来ることを望みます。いつの日か平和が訪れますように。

どの被爆体験講話でも真摯に向き合っていただき、その真剣な眼差しに圧倒されました。また率直な質問も多く、互いを知り、理解する機会を得ることができました。オーランド公共図書館では、講話中に閉館時間となったため中断しようとしたところ、「続けさせては」との声が出ました。大らかで自由に発言できるアメリカをこの目で見ることができ、嬉しくて涙が出ました。生涯忘れることのできない貴重な経験となりました。

被爆者
清野定廣さん



池田道明さんの被爆体験を語り継ぐ

家族・交流証言者 山下瑞季さんデビュー



次世代が、被爆を体験した方の思いを受け継ぎ伝える、語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）推進事業で新たな講話者がデビューしました。被爆者・池田道明さんの被爆体験を語り継ぐ、山下瑞季さんです。家族・交流証言者は、山下さんを含め、33人となりました。

この事業では、家族・交流証言者としてデビューするまで、被爆者との交流、原稿校正、話し方研修など様々な支援を行っています。講話は全国各地で、小・中学校などから依頼を受けて実施しており、講話回数は年々増加しています。

山下さんは、現在高校生。忙しい学校生活の中、原稿の作成や講話の練習に熱心に取り組んでくれました。

山下さんが伝えることで、同世代の若い人たちが、より身近に被爆体験について感じ、平和について考えることができているのではないかと思います。新たな平和の担い手として活躍してくれることを期待します。



追悼平和祈念館では、平成30年度から被爆体験伝承者等派遣事業を開始し、被爆者の被爆体験や平和への思いを語り継ぐ「家族・交流証言者」や、被爆者が記した被爆体験記や詩などを朗読する「被爆体験記朗読ボランティア」を国内外へ派遣しています。

本年度は10月9日から16日まで、吉田勝二さんの被爆体験を語り継ぐ家族・交流証言者の白鳥純子さん、被爆体験記朗読ボランティア「被爆体験を語り継ぐ 永遠の会」の甲斐一美さんをマレーシアへ派遣し、クアラルンプール市内の大学や高校など計3か所で、家族・交流証言講話と被爆体験記朗読を計6回行いました。

マレーシアには日本の言語や文化、日本への留学に関心のある若者が多く、講話や朗読に耳を傾けました。終了後には原爆投下や被爆に関する事、平和への取り組みなどについての質疑応答など、時折日本語も交えながら、派遣者と活発な意見交換を行いました。

また、講話と朗読の後は折り鶴アクティビティを行い、聴講した皆さんは折紙インストラクターの経験もある甲斐さんの指導のもと、色とりどりの折り鶴作りに取り組み、和やかな雰囲気の中で楽しい時間となりました。

朗読ボランティア
甲斐一美さん



被爆体験を朗読で伝えるということは、英語であっても同じように難しいものですが、涙を流しながら真剣に聞いて下さる姿や、意見交換での「核兵器は残酷だ」「戦争はいけない」「平和のためにもっと勉強したい」という言葉に、被爆者の想いは伝わったと感じました。そして今回は、「折り鶴アクティビティ」を取り入れたことで、全員が平和を願う象徴である折り鶴を手に笑顔で終わることができ、嬉しく思いました。

家族・交流証言者
白鳥純子さん



「吉田勝二さんの体験そのものが人の心を捉える」これにつきます。人生を変えた一発の原爆。母の愛に支えられ「地獄の苦しみ」を抜け出し、平和の語り部として笑顔をやさなかつた彼の生き様は、国も世代も越えて伝わったと思います。「アメリカは何故あんなひどいことができたの!」と号泣した女子学生。「ハグしても良いですか?」と感謝の気持ちを伝えてくれた高校生。魅力的な人々との出会いでした。

被爆者 池田道明さん

託す
かた

語り継がれる被爆体験

受け継ぐ
かた

家族・交流証言者 山下瑞季さん

私の被爆体験を受け継いでくれる山下瑞季さんの講話デビューを聞くため、原爆資料館を訪れました。

顔を合わせて話す機会はありませんでしたが、構成、内容、時間配分、資料の使い方など立派で、非常に流暢に話してくれました。直接対話で聞き取った内容の他、私が渡した講話資料も読み込んでくれたのでしょう。雑談の中で趣味がピアノ・歌・踊りと聞いていましたが、語りがリズムカルだったのも頷けました。



池田さんの被爆体験を語り継ぐにあたり、「伝える」難しさに改めて向き合いました。私は放送部なのでいつも「伝える」とは何かと考えながら読むようにしていますが、どうやったらその時の状況が伝わるか、自分の気持ちが届くか、「伝える」と「上手く読む」の違いに苦しみ、葛藤しました。

被爆者が高齢化していき、私たちが被爆者から直接体験を聴くことのできる最後の世代です。私は直接聴いてきたものとしての責任があると思います。自分に何が出来るかを考え、私は「交流証言」を選びました。

自分たちが考える国際・平和交流プログラム
アジア青年平和交流事業発表・審査会



長崎純心大学



長崎県立大学シーボルト校

長崎県立大学
 シーボルト校 金村ゼミ

長崎市内を中心に平和に関するスポットや平和活動を撮影した写真を使ってカレンダーを作成し、配布する。

長崎純心大学
 Green Pieces

長崎に住む外国人の方と平和や戦争について考える Peace Forum を開催する。

9月7日、追悼平和祈念館交流ラウンジで、アジア青年平和交流事業発表・審査会を開催しました。この事業は、長崎の若者が企画する事業を当協会が委託し、若者自身に実施してもらうものです。今年度は2チームの応募があり、審査の結果2チーム共認定することになりました。これからそれぞれ活動を行っていただき、3月には活動内容を報告してもらいます。

被爆者自ら被爆遺構を案内する
市民対象碑めぐり



コース

写真等で
 被爆当時の説明

旧制県立瓊浦中学校
 (現・県立西高校)

梁川公園



参加者の一人は、「この碑めぐりは、被爆者の話を聞ける貴重な機会。正にその場所に立ち、当時に語る姿に強烈な印象を受けました」と感想を話しました。

9月15日、継承部会原爆遺跡研修班が「市民対象碑めぐり」を実施し、約50人が参加しました。前半は三菱電機鋳物工場跡に建つ施設内で、被爆後の写真や地図を映しながら、被爆者が体験した当時の状況を説明しました。後半は浦上川周辺を歩きながら、前半の話に出てきた工場跡や防空壕跡を巡り、その場所でも当時の体験を語りました。山脇佳朗さんは、父を茶毘に付した製鋼所跡で、「この場所に来るとあの日のことが頭に浮かぶ。耐えがたい光景だった」と話されました。

国際交流部会主催
第33回外国人と長崎市民の集い



11月16日、外国人が日本語で語る「集い」に5か国から参加者が集まりました。この集いは日本語がたどたくでも皆に話したいことがあればOK。アルマンド(オランダ)は石油依存をやめて持続可能な生活に変えようと訴え、ジェイミー(ニュージーランド)はラグビー王国でも高校のクラブ活動では週に2回程度の練習しかないと意外な真実を、心梅(中国)は中国の麵グルメの紹介、マルビン(ホンジュラス)は国中が祝う楽しいクリスマス話、日系3世の春菜(ボリビア)は、移民した日本人は当初の過酷な状況を克服して今は順調な発展を遂げていると語りました。会場からは質問が活発に出され、盛り上がりしました。第2部の懇親会は「ハロー、やあ今日は…」の歌で始まり、これが大好評。笑顔がはじけました。来年は皆さんも是非来てください。(国際交流部会長)

青少年ピースボランティア
佐世保市平和関連施設見学バスツアー

コース

浦頭引揚記念
 資料館

佐世保空襲
 資料室

無窮洞



11月10日、青少年ピースボランティアが、バスツアーを行い、佐世保市内の平和関連施設を見学しました。浦頭引揚記念資料館では、終戦後、満州をはじめとするアジア各地より帰国した多くの日本人の引揚げの様子、生活などを学びました。また、佐世保空襲資料室では、佐世保空襲犠牲者遺族会会長からお話を伺った他、戦時中に使用されていた防空頭巾や千人針などを間近で見ることができました。無窮洞は、当時の国民学校の生徒たちが、先生の指示を受けながら掘り続けた防空壕です。機械を使わず、子どもがツルハシ等で整形したとは思えない立派な造りに、皆驚いていました。今回の研修で、原爆以外の視点から戦争についての知識を深めることができました。



市民のつどい開催

戦時食
体験

原爆写真
展示

ミニ
コンサート

折り鶴
体験

エコ風船
メッセージ

ポップ
コーン
綿菓子

10月26日、当協会は国連軍縮週間（10月24日～30日）に合わせて「市民のつどい」を開催しました。秋晴れの下、子どもから年配の方まで多くの方に来場いただきました。

会場には、エコ風船、折り鶴、原爆写真展、ミニコンサートの各コーナーのほか、長崎県地域婦人団体連絡協議会長崎市婦人会と活水高校の皆さまによる戦時食コーナー、紙しばい会による紙芝居コーナーもあり、綿菓子・ポップコーンコーナーでは行列ができるなど各コーナーで賑わいました。この「市民のつどい」に参加することで、あらためて戦争・原爆・平和について考える良い機会になったのではないのでしょうか。

来訪者コーナー



写真家
大石芳野さん

20年にわたり長崎の被爆者を撮り続けてきた写真家・大石芳野さん。今年3月、大石芳野さんの写真集「長崎の痕（きずあと）」（藤原書店）が発刊されました。

長崎市教育委員会によりますと、今年11月に「写真集『長崎の痕』を広める会」から長崎市内の全ての小中高校にこの本（151冊）が寄贈されたそうです。子どもたちにも、ぜひ読み継いでいただきたい一冊です。

大石芳野さんから、「引き続き写真を撮りたいので被爆者を紹介して欲しい」と当協会に要請があった際、大石さんにお会いしました。大石さんは、とても物静かな方でしたが、その瞳には熱い思いを感じました。



今年はピースボランティアと一緒に北九州の大学生も参加！

今年は、長崎に投下された原爆の第一目標であった北九州市の大学生が、長崎市を訪れ、「市民のつどい」と同日に行われた平和大行進でピースボランティアと共に風船を配るなど、運営補助を行いました。

前日には、被爆体験講話の聴講や、ピースボランティアによる碑めぐりを行うなど、被爆の実相を学びました。長崎の若者との交流を深めることで、平和の大切さを考える機会となりました。



Peace Wing Nagasaki 会員の広場

No. 11



お便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内でお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。

E-mail : info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117 長崎市平野町 7-8
長崎平和推進協会「会員の広場」係

写真資料調査部会の一員として、平和推進協会の活動に携わっています。本業がカメラマンということもあり、長年被爆者の撮影も続けています。また、平和関連イベントの際には写真の撮影を行うなど、様々な体験をさせてもらい、その写真をこの会報「へいわ」にも使用してもらったこともしばしばです。

この度、皆様に支えられながら長崎市出島町に「スタジオ・ワン・ナガサキ」を開業しました。こじんまりとしながらも居心地の良いスタジオにしたいと思っています。年明けごろ、開店記念としてこれまで撮影した平和関連の写真展を行う予定です。お近くへお越しの際はぜひお立ち寄りください。

これからも、写真資料調査部会員として、より一層フットワークも軽く活動していきたいと思えます。

草野 優介

第7期 平和案内人育成講座が始まりました



11月23日、4年ぶりに第7期 平和案内人育成講座を開講しました。まず、当協会の舩山忠弘副理事長より平和案内人の目的や活動についての話がありました。続いて、平和案内人2期生で、継承部会長でもある池田道明さんの被爆体験講話を行いました。39人の受講生は、これから原爆資料館や周辺のガイド研修、専門家による講義など、全15回の講座を経て、令和2年5月の活動開始を目指します。

第2回「被爆体験の深化講座」を開催

12月1日、継承部会継承部会交流班による「被爆体験の深化講座」を開催しました。2回目となる今回は「学校にまつわる話」として、戦時中の軍国教育や戦後の学校生活について、班員や参加した被爆者が語りました。当時の教育体制や教育勅語を覚えるまで読まされたこと、戦後に進駐軍からもらった綺麗な紙の話など、普段の被爆体験講話では聞くことができない内容も多く、参加者はメモを取りながら聞き入りました。



第3回は、2月2日（日）に「学徒動員」をテーマに開催します。

被爆体験を語り継ぐ 永遠の会

第15回 定期朗読会

今年度3回目となる定期朗読会では、追悼平和祈念館に収蔵されている「被爆体験記集（通称・黒本）」がつなぐ家族の絆と、子どもたちが未来に広げる平和への想いを朗読でお伝えします。ぜひご来場ください。

日時：2月9日（日）14：00～15：00

場所：追悼平和祈念館 交流ラウンジ



【問合せ】追悼平和祈念館 ☎ 095-814-0055



NAGASAKI PEACE MARATHON

長崎平和マラソン開催決定!

世界初、被爆地を走るフルマラソンが被爆75年である来年11月29日に開催されます。スタート・フィニッシュは平和公園（市営陸上競技場前）。それぞれの平和への思いを胸に長崎のまちを走りませんか。ランナー募集は2020年3月開始予定です。



【問合せ】 公式ホームページ QRコード ▲
長崎平和マラソン実行委員会 ☎ 095-829-2104

世界の核弾頭の数（2019年6月1日現在）

ロシア	米 国	フランス	中 国	英 国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合 計
~6,500	~6,185	300	290	215	80	~150	130	20~30	~13,880

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

- ◎維持会員 1077人
- ◎賛助会員 154人
- ◎学生会員 11人

（令和元年12月19日現在）

賛助会員（団体・法人）の一覧は協会ホームページに掲載しています。ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎白鳥 純子 (敬称略) 一万三千元
- ◎川上 正徳 一万円
- ◎匿名七名 四万九千九百六十円

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。今年度また会費を納めていただけない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入ください。ようお願いいたします。お支払いただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。だくか、事務局までご連絡ください。

